

(別記様式)

令和5年度 府立久御山高等学校 学校経営計画（スクールマネジメントプラン）（実施段階）

学校経営方針（中期経営目標）	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点（短期経営目標）
<p>本校は、久御山町内で唯一の府立高校であるという立地特性を活かし、校訓である「自学・自律・自鍛」の精神を柱に、地域・保護者に信頼され、その期待に応える教育活動を推進することが重要である。そのためには、本校が目指す文武両道教育達成のため、道徳規範や生活規律の徹底を図るとともに、自ら学ぶ学習習慣を確立し、高校教育の総和である希望進路の実現に向けた取組を全力で進める。</p> <p>1 基本的生活習慣の確立を図るとともに、教養ある豊かな人間性を育み、よりよき人格の形成に努める。</p> <p>2 一人ひとりの学習意欲を育て、確かな学力を身に付けるとともに、自己実現を目指す自立した人間の育成に努める。</p> <p>3 21世紀をリードする創造性と、よりよい社会の形成に主体的に参画する人材の育成を目指す。</p>	<p>1 「チーム久御山」としての組織力を高めるために、教職員全体の連携をより深めることが重要である。</p> <p>2 新学習指導要領を踏まえ、生徒の確かな学力を育成するために、授業の改善や評価の工夫を推進し、教師力の向上を図る必要がある。</p> <p>3 学習用端末の生徒一人一台導入により、より一層、ICTの活用を進める必要がある。</p> <p>4 希望進路の実現を目指し粘り強く地道に努力させるための指導を行い、具体的な進路目標の早期設定等、進路意識の向上に向けた指導、取組が必要である。</p> <p>5 部活動加入率の向上や部活動の活性化に向けて、校内体制や指導方法により改善を加える必要がある。</p> <p>6 交通安全マナーや情報モラルなどの生徒の規範意識をより一層向上させるための指導に引き続き取り組む。</p>	<p>1 個に応じたワンランクアップを目指す教育活動を行う。</p> <p>(1) ICTを活用する教育活動を積極的に行い、新しい学習指導要領に向けた授業改善を推進する。</p> <p>(2) 生徒に手帳やClassiを活用することを通して、自己管理や自主学習を行う習慣をつけさせ、ワンランク上の進路目標に向けて努力させるための組織的な取組を行う。</p> <p>(3) 特別活動を充実させて学校の活性化を図るとともに、日々の授業に真剣に取り組ませて、部活動と学習とを両立する姿勢を培う。</p> <p>(4) 配慮を要する生徒へのきめ細やかな教育相談・特別支援教育を推進する。</p> <p>(5) 自転車マナーの遵守や情報モラルを向上させ、人や社会と共生するための人間力の育成と地域社会の一員としての自覚を高める。</p> <p>2 保護者・地域に信頼される「開かれた学校づくり」を推進する。</p> <p>(1) 学校の教育活動等についての情報発信を積極的に行う。</p> <p>(2) 「総合的な探究の時間」やボランティア活動等を通して地域とのつながりを深める。</p>

評価領域	重点目標	具体的方策	評価		成果と課題
(1) 組織・運営	学校運営体制の強化を図る。	分掌・教科間の連携を強化し、「チーム久御山」として組織的・効率的な学校運営を行い、共通理解のもとで重点目標の達成に努める。	B	B	B ○学校行事等が制限なく実施できるようになる中、「チーム久御山」として組織的・効率的な学校運営を行うことができた。 ○令和6年度団体鑑賞や令和7年度研修旅行等について保護者負担を考慮しつつ計画した。 ○次年度は事務の視点からの提案を主体的、積極的に行っていくように努める。
	学校評価等の充実に努める。	新入生アンケート、学校評価アンケート等を適宜実施し、経年比較することで本校の教育的課題を明確化する。	B	B	
	学校活性化に努める。	教育検討会議において学校全体としての教育的課題を検討し、課題解決に必要な対策を企画する。	B	B	
	主体的・積極的な事務の企画、立案等を推進する。	「府立学校の事務等に関する規程」を理解し、主体的・積極的に学校運営に係る事務の企画、立案及び連絡調整を行う。	C	C	
(2) 教育課程の編成と実施	新教育課程の実施	I C T活用による「主体的・対話的で深い学び」のための授業改善を推進しつつ、観点別評価を適切に取り入れながら新教育課程を実施していく。各教科における教材研究についても積極的に促していく。	A	B B	B ○観点別評価については今年度も大きな混乱なく実施することができた。次年度への完成に向けても動き出している。 ○総探については昨年度からの取組を踏まえた上での実践を行うことができた。今後、さらに高度な探究活動となるよう内容を精査・調整していきたい。
	総合的な探究の時間の実施	総探の実施内容について、昨年度の実践における成果や課題を踏まえて、地域探究をテーマに学年部・各教科と連携して立案・実践するとともに、本校生徒にとって、より有効的な実践となるよう工夫していく。	B		
(3) 学習指導	学力の向上と教科の指導力の向上を目指す。	生徒の必要な資質を向上させることを目的とした「主体的・対話的で深い学び」やI C Tを活用した授業の研究や実践を行う。観点別評価について、昨年度実施により明らかになった課題を改善していき、より良い評価規準を目指して議論を継続していく。	B	B B	B ○I C Tについては、一人一台端末が導入された1・2年生において授業で積極的に活用ができた。より効果的に活用できるよう意識喚起をしていく。 ○学生ボランティアも活用し必要な個別支援を実施した。 ○成績不振者を適切な時期に把握し、必要な支援・指導につなげることができた。
	配慮を要する生徒への特別支援教育を推進する。	様々な観点から配慮を必要とする生徒を把握し、早い段階から自立に向けた支援ができる体制作りに努める。	B		
	<学籍管理> 成績処理の安定化と成績不振生徒への適切な対応	校務システムの特徴を活かし正確な成績処理が行われるよう働きかけるとともに、教員間の連携を密にし、早期に成績不振生徒の把握・サポートに努めて不適応となることを防ぐ。	A	A	

評価領域	重点目標	具体的方策	評価			成果と課題
(4) 特別活動	学校の特徴として部活動・同好会活動の活性化を図る。	生徒の健全育成の為、適切な部活動運営に努めるとともに、外部指導者等を活用し、より一層充実した活動の保証と競技力の向上を図る。	B	B	B	○部活動加入率は68.0%であり、昨年度と比べると少しではあるが増加した。 ○卓球同好会を設立した。 ○剣道部、陸上部、サッカー一部（フットサル）、なぎなた同好会が全国大会出場を果たした。 ○生徒会活動においては、学校行事だけでなく、校外の活動も活発に実施し、交流事業を通じて地域との繋がりに貢献した。
		部・同好会への加入率の向上（80%）を目指すとともに、部活動をより活性化させ、部活の数を増やす等、内容の充実を図る。	C			
	生徒会を中心とする自主活動の活性化を図る。	学校行事において、生徒会本部役員を中心に、生徒の主体的な運営を目指して指導を行う。	B			
		文化祭等各種行事や生徒会・委員会活動を活用し、生徒の自主活動の段階的成長を図る。	B			
		ボランティア活動や地域との交流等への積極的な参加を促し、「共助」の精神を養う。	B	B		
(5) 生徒指導	自ら律する力をつけた生徒を育成する。	校訓である「自学・自律・自鍛・共助」の精神について、教育活動を通して実践する能力と態度を養成する。	B	B	B	○特別指導件数は4件10名で、増減はなかった。しかし、生徒指導部長注意や学年部からの指導等の対象となった事象は多い。改めて、生徒の規範意識の向上や、モラル・マナーにかかわる教育の徹底が大切であると痛感している。 ○交通ルール・マナーに関して宇治警察署による講演や各学期に交通安全指導習慣を設定して指導にあたったが、依然苦情の多い1年であった。生徒自身が命を守る意識を一層高める取り組みを推進する必要がある。 ○SNS関係でのトラブルが近年増加している。表面化しにくい問題であることに危機感を抱いている。来年度タブレットの規制も撤廃される。更なるモラル指導・使い方指導が必要であると感じている。
		あらゆる教育活動を活用して「自ら律する力」の育成を図る。特にホームルーム活動・委員会活動・部活動において、重点的に指導する。	B			
	問題行動を起こさせない生徒指導を行うように努める。	警察との連携を深め、交通安全指導や交通安全講演会の実施等、指導内容を充実させる。特に自転車の交通ルールやマナーの向上を図る。	B			
		挨拶や言葉遣いなどの日常的なマナー指導を通じて、規範遵守の意識を向上させる。	B			
		登校時の指導やホームルームでの指導、啓発文等を活用し、問題行動防止の啓発に努めるとともに、問題行動への早期対応・指導を行う。	B			
		講演会や全校集会（学年集会）を有効に活用し、生徒の規範意識の向上を図る。	B			
	防犯体制・防犯教育の充実を図る。	緊急時の対応体制の確立、日常の校門指導（遅刻等）、貴重品管理の徹底（盗難防止）等の指導体制を継続し実行する。	B	B		
		防犯教育の一環として、SNS等を介したサイバー犯罪と違法薬物に関することを中心的に取り上げ、安全確保の意識と緊急時の適切な行動の実践力を養成する。	B			

評価領域	重点目標	具体的方策	評価		成果と課題
(6) 進路指導	各学年の発達段階に応じた3年間の系統的なキャリア教育を推進するため、各分掌・教科との連携を図る。	3年間を見すえた進路計画を作成し、各段階で目標とする態度の育成のため学年団との連携を図り、早期の進路目標設定とそれへの行動を促すことでより高い進路実現を達成させる。	B	B	○進路計画に従い進路HRや外部と連携した説明会などを実施した。学年との連携により生徒目線に沿った新たな内容も実施できたが、生徒が主体的にキャリア意識を深めていくところまでは至っていない。情報発信の工夫や社会体験の機会の設定も必要と考える。 ○模試前の学習等でClassiの動画学習に取り組みさせた。 ○ほぼ計画通り進学講習が実施できた。小論指導や面接指導では事前に生徒に出題内容を調べさせ目的意識を持たせた。 ○3学年部とは入試情報を密に共有し指導に当たった。進路の教員研修会への参加率が低いことなど、教員全体での共有には課題を残した。
		各学年において外部人材等も有効に活用しながら、計画的に進路HRを実施し、生徒が進路について主体的に取り組むように学年部とともに働きかける。	B		
		模試等の事前・事後指導や講演会・進路別説明会などを通じ、自己を様々な方向から見つめ直す機会とする。	B		
	学習活動全般において、積極的に行動し主体的に学ぶ習慣を持たせる。	Classiの有効な活用や、業者から提供される動画等の活用方法を学年や教科に発信し、学習意欲や進路意識の向上につなげる。	B	B	
		進学講習を通じ意欲の高い学習集団を形成するとともに、小論文や面接講習・志望理由書作成などで思考力・判断力・表現力等の育成を図る。	B		
	進路決定・進路実現に必要な情報を生徒・教員及び保護者に適宜発信する。	進路指導部日より「まほろば」や進路の手引きなどの発行を通じて、生徒や保護者に必要な情報発信をするとともに、端末所持を前提とした情報発信の方法を検討する。	B	B	
入試の最新情報を教員に発信するとともに、模試やスタディーサポートの結果が生徒の学習や進路意識の向上に向けた指導に有効に生かされる手立てを考える。		B			
(7) 人権教育	人権教育の推進を図る。	日常生活の中で、他人に配慮する姿勢を身につけさせ、「暴力・いじめ」を絶対に許さない気運を醸成する。	B	B	○いじめアンケートやいじめ対策会議を実施して、いじめの早期発見・早期対応に努めた。 ○生徒や保護者のSC希望に対して日程の調整等ができず、SCを効果的に活用できなかった。 ○学校生活の適応に課題のある生徒に対して、学年・教務部等と情報を共有し支援を行った。 ○定期的にSSWから生徒に関する助言を受けた。今後は学年がSSWと直接相談できる機会等を積極的に作っていきたい。
		各分掌・教科と連携し、豊かな教養の涵養や、道德規範や生活規律の遵守を徹底することをあらゆる機会をとおして指導し、人権意識を高める。	B		
	<特別支援教育及び適応指導>合理的配慮が必要な生徒への教育的支援を図る。	各分掌との連携を密にし、特別支援教育及び教育相談活動を充実させるとともにスクールカウンセラーの効果的な活用を図る。	B	B	
		学校生活に課題のある生徒の状況を把握し、教務部と連携し学習支援体制の充実を図る。また、必要に応じてスクールソーシャルワーカーの援助も受け、児童相談所等の外部機関との連携を密にする。	B		

評価領域	重点目標	具体的方策	評価			成果と課題
(8) 図書館指導	図書館の資料や設備等を充実させ、読書の推進を図る。	各種の情報や要望に基づき、長期的視野に立って図書館資料を充実させることにより読書の推進を図り、貸出冊数や授業で図書館を利用する機会の増加につなげる。	B	B	B	○図書館オリエンテーションの内容を改善し、生徒が図書館内を探索する活動を取り入れた。また、話題の書籍を新着図書として選択するなど、読書活動の充実を図った。
		次年度からの団体鑑賞実施に向けて、会場、劇団の確保や日程の調整を行う。	A			
		時宜にかなった特設コーナーの設置や読書イベントの企画、運営を行い、図書館に足を運ぶ生徒数の増加につなげる。	B			
(9) 健康・安全	健康・衛生管理の徹底を図る。	学校保健計画に基づき、適切な健康診断、健康調査、事後指導、健康相談を実施する。	A	B	B	○学校医からの助言と指導を受け、健康診断等の健康管理について計画通りに実施できた。 ○1学期に薬物乱用防止講演を実施して早期の啓蒙を図った。救急法講座を熱中症増加前に実施できるよう時期を検討する。 ○保健だよりを毎月発行し健康管理の大切さを生徒に伝えた。 ○生徒は清掃活動に概ね取り組んでいたが、ゴミの分別は徹底できていなかった。今後は更に美化意識の向上に努めたい。
		学校安全計画に基づき、学校環境の整備、衛生・安全面に關する定期点検を行い、改善に努める。	B			
	健康安全教育の充実、推進を図る。	薬物乱用防止教育、救急法講座等の健康教育を推進する。	A	A		
		自身で健康管理をすることで自律した生活を送ることの大切さを理解できるような取り組みをする。	A			
<学習環境・美化活動> 環境保護・美化活動の推進により学習環境の充実を図る。	ゴミの分別を徹底させる。また、ゴミ総量の減少にも努める。	B	B			
	生徒の清掃活動を充実させるため、美化意識を向上させる取り組みを促す。					
(10) 研究・研修	研究・研修に努め、教育職の専門性を高める。	「京都府教員等の資質の向上に関する指標」に基づき、教職員の資質能力の向上に努める。	B	B	B	○服務規律の確保については啓蒙の機会を持てたが、研修については一層促進する必要がある。
	服務規律の確保に努める。	服務規律を確保するため、あらゆる機会を通じて啓発する。	B			
(11) 安全管理・環境整備	施設設備の安全管理の徹底に努める。	安心安全な学校を維持するため、施設・設備の定期的な点検を実施し、不良箇所等の早期発見・早期対策に努めるとともに、予防保全を行い、老朽化している施設・設備の計画的な改修を行う。	A	A	B	○グラウンドの修繕工事の他、アクセスポイントの設置等を実施した。また、学校施設の老朽箇所や不良箇所の修繕について早急に対処し改修できた。
	設備、備品等の改善整備に努める。	I C Tを活用した学習をより一層高められる教育環境の整備・更新に努める。	B			

評価領域	重点目標	具体的方策	評価			成果と課題
(12)情報・文書管理	校内の情報管理を円滑に行うとともに、学習用タブレット端末の利活用の充実を図る。	校内のネットワークやファイルサーバーの管理、運営を適切に行う。	B	B	B	○タブレット端末の不具合が増加しているが、速やかな対応ができた。次年度以降、M/D/M解除に伴う変化にも適切に対応していく。また、サーバーのデータ容量が圧迫している状況は依然改善できていない。
		教務部、事務部と連携しながら、タブレット端末本体や配信アプリの管理を適切に行うとともに、久御山手帳の移行など、タブレット端末の利用促進を図る。	B			
(13)開かれた学校づくり	広報活動（情報発信）を積極的に行う。	ホームページやInstagramを活用し、本校の特徴や取組が伝わる情報発信を積極的に行う。	B	B	B	○学校紹介パンフレットの内容を直感的に理解しやすくする工夫ができた。 ○生徒会中心の学校説明会を行うことができた。一方で、参加者数が想定を上回り運営スタッフ不足が生じた。内容や募集方法の更なる改善が必要である。部活動体験については各部活動の希望に応じた柔軟な日程設定を行うことができた。 ○感染症対策の制限が緩和されたが、国際交流についてはまだ回復しきれていない。
		生徒の様子が伝わるような広報資料の作成、配布を行うとともに、特に山城通学圏の中学校との連携を密にし、積極的な広報活動を行う。	B			
		学校説明会、部活動体験会等において、生徒指導部や関係部活動等と連携しながら、生徒主体で、生徒の活発な様子をPRすることができる説明会とする。	B			
	国際理解教育を推進する。	関係諸機関との連携を図り、教職員・生徒に対して適切な情報提供を行うなど、国際理解教育の推進に努める。海外からの受け入れに対して柔軟に対処する。	B	B		
<保幼小中支高連携> 保幼小中支高における連携事業を推進する。	保・幼・小・中学校及び支援学校の様々な行事のサポートなど連携事業を進める。特に久御山地域の教育施設については、特色化事業の観点からもさらに連携を深める。	B				
(14)家庭・地域との連携	保護者との連携を図る。	生徒の健全育成のために、家庭・PTA・地域社会・関係諸機関との適切な連携を図る。	B	B	B	○PTA活動について、内容を精選しながら、飛翔祭におけるキッチンカーの手配など、生徒の喜びにつながる活動を行うことができたが、PTA本部役員候補の選出について、課題を残す形となっている。
	PTA活動を適切に援助する。	PTAを取り巻く時代の変化に配慮した上で、保護者等がPTA活動に積極的に参加しやすいような取組となるように、副校長と連携しながらPTA活動の連絡・調整・案内等を適切に行う。	B			

<p>学校関係者 評価委員会 による評価</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・社会全体がデジタル化に進んでいく中、生徒の情報リテラシーやモラルを向上させる指導がますます求められる。研修等で一定の対応は進んでいるものの、より一層、教員の指導力を高める必要がある。 ・自転車乗車マナーの指導については、法規の改正も踏まえた上で、地域との連携も強化し、引き続き取り組んでいただきたい。 ・久御山町を対象とした地域の学習を通して、生徒の探究的な学習態度を養ってほしい。さらには、地元企業との交流等も通じて、地元経済の発展やワークライフバランスといったテーマにも取り組んでいただきたい。 ・部活動は学校生活の中で大きなウェイトを占めている。地域連携等さらなる活性化とともに教員の負担増にならない工夫が必要である。
<p>次年度に向けた改善の 方向性</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・交通安全、情報リテラシー等社会のモラルやマナーについて主体的に学ぶ機会を設定するとともに、日ごろから規則の趣旨を説くなどきめ細かな指導を行い、生徒の意識向上を図る。 ・地域連携については、総合的な探究の時間や生徒会本部・部活動を通じて一層推進していく。 ・生徒が安心安全な学習環境のもと、様々な活動にのびのびと楽しそうな姿で取り組んでいる様子を学校 HP などでさらに情報発信していくとともに地域連携等についてメディアに積極的に情報提供する。